

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	光廣 敏樹	担当者名	江盛 浩司
-----	-------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『適応指導教室の体制づくりと運営について』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通した絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

不登校傾向児童や登校しぶりの児童にとって「安心できる居場所」を作り，自らの可能性に気付き，力を取り戻しつつ，教室又は学校復帰できる力を身に付ける。

取組のねらい

廿日市市学校教育の取組にある「子どもたちに寄り添い心を育てる教育を進める」の中の，「すべての子どもたちの居場所づくり」に着目して，不登校未然防止に努め，児童の居場所づくりの充実を図る。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

児童Aくんは折り紙に興味があり，作品作りに自信をもっていることから，一緒に折り紙を折り，それを相談室に飾った。また，児童Bさんは，細かい作業が好きなことと，大変繊細だったので，この部屋に足りないものを相談し，植物を用意して場所づくりに取り組んだ。更に二人は，クラブ活動で作品作りを行い，それを通して自己有用感を高めた。

児童の特徴を生かしながら環境(相談室)づくりに取り組んだ。



相談室の様子
児童の個々の状況を考慮した，体制(別室指導対応マニュアル)づくりを行った。

別室指導対象の児童が増えていくにつれ集団に適応させる手立てに，違いがあることが分かった。個々の課題に応じた適切な支援を分析して，ニーズに合った体制を作る必要を感じ，部屋を3つに分けた。更に，児童への適切な支援，教職員の意識統一や共通した指導のために，指導体制の見直しを図り，「別室指導対応マニュアル」を作成した。個別の指導計画も作成し，支援に役立てた。

地域学校協働本部の協力を得ることも考えた。毎月の相談室の見守りの予定は，地域支援調整会議にて，翌月に入ってもらいたい予定を伝え，調整して見守って頂いた。

運営には，地域学校協働本部の方の力を生かしながら取り組んだ。

取組の成果と課題

〈成果〉

- ・昨年度90日以上欠席した2名の児童について，本年度の欠席数がそれぞれ12日，1日と大幅に減少した。
- ・他にも利用している児童はいるが，休んでいる又は欠席が長期化する可能性があると思われる児童の安心できる場所を作ることができた。
- ・昨年度の状況と比べてみると，今年度1月末の時点で，長期欠席者数は減っている。(令和元年度長期欠席者14名，令和2年度長期欠席者9名)

〈課題〉

人的なこと

- ・「生徒指導主事に任せておいたらいい。」という意識を持った教職員とのよりよい連携の取り方。
- ・相談室登校が長くなると担任の負担が増え，個に対応する時間が減ってくること。
- ・教職員間のクラス経営の考え方の違いや世代間の考え方の違い。
- ・不登校傾向ではない児童の利用の増加。

環境的なこと

- ・児童数増加に伴う場所や人員の確保の困難さ。
- ・計画的に見守り体制を整え，継続的に支援していくことが必要であること。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	校長	小田原 かおり	担当者名	岡本 美紀
-----	------------	----	---------	------	-------

取組事例名 『主体性を育む児童会活動～挨拶運動キャンペーンを通して～』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

○主体性，コミュニケーション能力




取組のねらい

○児童会執行部が中心となり，児童発信の挨拶運動キャンペーンを展開することを通じて，進んで挨拶をしようとする態度を育てると共に主体性やコミュニケーション能力を育成する。

取組の具体的内容

- 1 執行部宣言「こんな南小にしたい」という思いを旧執行部から新執行部が引き継ぐ。(4月～6月)
- 2 執行部が代表委員会にて「挨拶運動キャンペーン」取組の詳細を知らせる。(9月)
- 3 執行部が南小のめざす挨拶モデル動画を作成し，全学級に視聴してもらう。
(挨拶ポイント) 自分から進んで！
・目を合わす・会釈を返す・声を出す(コロナ禍に配慮)
- 4 挨拶運動キャンペーンを実施。(12月～2月)
・7:45から8:00に割り当てられた学年の児童が門や玄関など5か所に立ち，登校してくる児童に挨拶をする取組。(立つ児童は、執行部作成挨拶プレートを着用)
・執行部⇒各委員会⇒第5学年⇒第4学年⇒第3学年(1週間毎)
- 5 挨拶運動キャンペーンの振り返りを行い，代表委員会にて内容を報告し，来年度執行部へ思いをつなぐ。

取組の創意工夫

- ・執行部宣言「こんな南小にしたい」を校内に掲示し，児童の意識化を図ることができた。

- ・児童発案の「動画」案を採用したり，執行部が出演したりすることでより主体的に取り組むことができた。

- ・キャンペーン中は校門や玄関の5か所に児童が立ち積極的に挨拶を行い，挨拶の意識向上を図ることができた。


取組の成果と課題

- 児童発信の挨拶運動を展開して「これまでの南っこが築いた伝統を受け継ぎつつ，今の自分達らしさを出してよりよい南小を創っていきたい」という強い思いを持って取り組むことができた。
- 挨拶における生活向上アンケート「自分から挨拶をしている。」の肯定的評価は，6月90.8%，11月91.6%，2月93.6%と徐々に増加し，高水準を維持できた。
- △挨拶運動は一定の効果は上げたが，校内や地域で「誰にでも」という挨拶ができる児童が十分とはいえないので，今回のような児童主体の活動を継続していく。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	海田町立海田南小学校	校長	西岡 律子	担当者名	宇多 弘典
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名		『SSR(スペシャル・サポート・ルーム)開設について』			
生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話			主体的な活動を通じた絆づくり
取組における育てたい資質・能力					
<p>○ 不登校傾向の児童が，毎日登校すること。</p> <p>○ 困ったことがあったり，いやな気持ちになったりしたときには，周りの大人に相談すること。</p> <p>○ 自分らしさ(得意なこと・夢中になれること・苦手なこと)について知ること。</p>					
取組のねらい					
○ 不登校傾向の児童が登校して，学校生活の中に自分の居場所を見つけることをねらいとしている。					
具 体 的 内 容			取組の創意工夫		
<p>①4月 SSR 開設 4人でスタート。</p> <p>②4月～8月 児童の意見を聞きながら教室アレンジや1日の生活の仕方を改善していく。</p> <p>※SSW と SSR 児童全員が面談。生徒指導主事が SSW から不登校傾向の新たな要因について聞き，個に応じた指導法についてアドバイスをいただいた。</p> <p>③9月～10月中旬 人間関係も落ち着き生活パターンが安定する。</p> <p>④10月中旬～12月 トラブルが多発する。 ※児童間の関係が悪くなり，数人の児童が欠席したり，早退したりした。</p> <p>⑤1月～2月中旬 人間関係も落ち着きを取り戻し，1つの教室(SSR)で過ごせるようになる。 ※生活パターンが安定せずに，登校時間が不安定。児童がSSW と面談した。生徒指導主事が，アドバイスを受けた。</p>			<p>①目標，部屋のアレンジ等，SSRでの過ごし方を教師が示した指針に児童が付け加えた。</p> <p>②個室を設ける。1日2時間以上勉強する。学年に応じた国語・算数を中心としたプリント・ドリルをする。 ※ある児童の発言等により，周りの児童と対立する場面が度々起きた。その都度話し合いで解決する。 ※待つ姿勢・ほめる・自己決定させることの大切さを学ぶ。</p> <p>③人間関係を構築することで児童の登校意欲を高めていった。</p> <p>④それぞれの児童の居場所づくりのためSSRを2つの部屋に分け，指導していく。 SSR・・・4月当初居た児童。 別室・・・4月以降の児童。</p> <p>⑤登校時間が安定しない児童らの対応の仕方について保護者と連絡を密にして取り組む。</p>		
取組の成果と課題					
<p>○SSRを設置することで，不登校傾向の児童の居場所ができて登校できた。</p> <p>○SSW と不登校傾向の児童が面談することで，児童の悩みが分かり，その後の指導に生かすことができた。</p> <p>○SSRの児童間の人間関係を構築することで，登校意欲を高めることができた。</p> <p>○保護者との連携を密にして，登校するためのねらいや方法を共有した。</p> <p>●学年相応の学力をつけることができなかった。学習方法の工夫をして学習意欲を高めていく必要がある。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	熊野町立熊野第四小学校	校長	堂本 啓介	担当者名	出野 薫
取組事例名 『人の役に立つことに喜びを感じる児童の育成』					
○	生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
取組における育てたい資質・能力					
<ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つことを進んで実践する力 ・一人一人を大切にし，友だちを肯定的に見ていく力 					
取組のねらい					
<ul style="list-style-type: none"> ○人の役に立つことを進んでやる児童を育成する。 ○「学校楽しいーと」を活用し，児童の学校適応感を把握するとともに居心地の良さを感じる学級集団を目指す。 					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>1 人の役に立つコーナー</p> <p>児童玄関のそばに，友達が人の役に立っている姿を掲示できるコーナーを作り，友達の素敵な姿に気づかせる。</p>  <p>2 「学校楽しいーと」の活用</p> <p>① 「学校楽しいーと」を実施するにあたり全教職員で研修を行う。</p> <p>② アンケートを実施・分析する。(学期ごとに実施)</p> <p>③ 分析結果をもとに，各学級の課題，目標・取組内容を設定する。</p> <p>④ 活動計画を実行・修正する。</p> <p>4年生「4ねりんびっく」児童が企画運営する大会</p>  <p>6年生「熊四の伝統をつなごう」～和太鼓演奏～</p> <p>⑤ 成果を点検・課題を検討・見直し修正をし，新たな計画を立案する。</p> <p>3 教職員の情報共有</p>  <p>① 支援の必要な児童について，ケース会議を開き，支援内容を全教職員で共有する。</p> <p>② 不登校傾向のある児童などが利用できる「くまのこルーム」を設置する。定期的に不登校等支援会議を開き，不登校傾向のある児童の情報交換を密にする。</p>			<p>○友達の素敵な姿とその姿を見つけた児童について，定期的に全児童に披露する。</p> <p>○分析結果をもとに学級ごとのストロングポイントとウィークポイントを見つけ，ポイントにあった活動計画を立てる。</p> <p>○活動内容が児童たちにどのような成果があったのかアンケートにより分析し，次の目標を立てていく。</p> <p>○他の学級の取組を交流し合う場を設け，情報交換する。</p>  <p>○だれもが自分と向き合ったり心を落ち着かせたりすることのできる場を作る。また，定期的に情報交換することで，細かな支援ができるようにする。</p>		
取組の成果と課題					
<p>○学級集団における適応感の増加が見られたことは，「学校楽しいーと」の分析からの取組が影響したと考えられる。取組を振り返り課題や修正箇所を整理してより良いものにしていくために，ぜひ来年度も実施したい。</p> <p>(「学校楽しいーと」アンケート結果 学校適応感の項目 1学期→2学期・・・4年生 0.21ポイント増・6年生 0.235ポイント増)</p> <p>○不登校傾向のある児童の欠席日数が減少し，学級に上がる回数が増えた。和太鼓の練習に向けて担任による粘り強い声掛けや友達の変わらない接し方が児童の行動の変化につながり，友達と力を合わせて和太鼓の練習に取り組めたことは，本人の自信につながった。(A児欠席：昨年度 100日→本年度 1月末現在 28日出席停止含む)</p> <p>○コロナ禍で制限のある中，何が必要か全教職員で考え取り組んできた。今後も児童の笑顔を絶やさないための取組を，改善を繰り返しながら全職員で力を合わせて進めていきたいと改めて感じた。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策、生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長	沖 章生	担当者名	東 英治
-----	------------	----	------	------	------

取組事例名 『情報共有と共通理解による児童の居場所づくり』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

○やり切る力

取組のねらい

- 不登校・不登校傾向の児童をはじめ、学習集団になじめない児童が、学校とのつながりを途切れさせないようにするため、校内に居場所（サポートルーム）をつくる。
- 児童の状況について教職員間で情報共有し、不登校等の理由に応じた働きかけを行う。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

- 毎朝、担任は健康観察簿と欠席者連絡カードを提出する。生徒指導担当は、欠席連絡カードをもとに、児童の遅刻・欠席等の状況を素早く把握し、電話連絡や家庭訪問を行う。
(欠席や遅刻等の理由も記入している。)



- 児童の状況により、担任、養護教諭、学校ふれあい相談員、日本語教室担当教員、生徒指導担当者等、複数の教職員で家庭訪問を行い、本人の顔を見て「待っている」ことを伝える。

- 児童の様子について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携する。



- 教室に位置付くことが難しい児童のために、サポートルームを設置し、学習する場を設けている。

- 児童の欠席や遅刻等の状況を把握するため、職員室のホワイトボードに、次のように色分けして見て分かるように工夫している。

- ・黒→欠席
- ・青→遅刻（登校後は赤丸をする）
- ・赤→出席停止，特別欠席

- 週に3日欠席した場合には、必ず家庭訪問を行っている。
(児童の状況により、放課後、担任が家庭訪問し連絡帳を届ける場合もある。)

- スクールカウンセラーを講師に、児童理解について校内研修を2度実施し、指導に生かしている。

- 担任、生徒指導担当、学校ふれあい相談員等が対応している。

取組の成果と課題

- 欠席者連絡カードに欠席や遅刻の理由を記入することで、連絡がない児童宅へ電話連絡し、本人の状況を確認することで、登校を促す取組になっている。
- 複数の教職員で家庭訪問し、児童に「心配していること」「待っていること」のメッセージを伝えることで、「遅れてでも登校しよう」「明日は登校しよう」と前向きな気持ちにつながっている。
- 関係機関と連携し、場合によっては教育相談等につなげることができる。
- サポートルームの設置や学校ふれあい相談員の配置により、昨年度、132日欠席し不登校だった児童が、今年度の欠席日数は1月末の段階で31日である。1時間程度ではあるものの、児童が登校してみようという気持ちにつながっている。
- 学習面に係る支援内容を充実させ、サポートルームの活動を通して力をつけていくことが、今後の課題である。

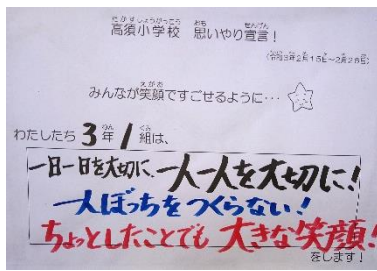

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三原市立沼田東小学校	校長	徳重 宏美	担当者名	室 功貴
取組事例名		『のびのび教室（SSR）の運営』			
○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話			主体的な活動を通じた絆づくり
取組における育てたい資質・能力					
レジリエンス（心の回復力），社会的自立					
取組のねらい					
不登校や暴言等の生徒指導上の課題のある児童や集団の中で支援が必要な児童及びその保護者の実態に合わせて，学級に心をはせながらも学校内に居場所をつくり，学級の児童とも交流しながら，主体的に学習や生活ができる場を自らが選択できる児童を目指す。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>【保護者連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校だけでなく，暴言，授業妨害，徘徊等の生徒指導上の課題がある児童や集団の中で支援が必要な児童を対象とし，保護者や児童に社会的自立を目指すことを目的とした「のびのび教室」の利用を勧める。 <p>【SSR指導体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な学習や生活を目指して，運営が軌道にのるまでは担当者が関わる時間数を多くし，軌道にのれば担当者はSSRに入る時間を半減し，各学級への支援の時間に充てる。 <p>【教職員の連携体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週2回，暮会で，各学級の支援が必要な児童の情報交換を行うとともに，SSRを利用している児童について情報交換を行う。 <p>【主体的な活動ができる居場所づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての児童が安心して過ごせるルールづくりと，児童同士の要求に応じてともに活動できる環境をつくる。 			<ul style="list-style-type: none"> 不登校等児童支援会議で，該当児童や保護者へのアプローチの仕方を協議し，管理職1名，SSR担当，学級担任で保護者と相談する。通室後も随時，その児童の該当学年が終わるときの姿を保護者と共有しながら相談を継続する。 運営が軌道にのった後のSSRでの指導は，管理者や空き時間のある教諭で担当する。その際，関わり方を共有するとともに，日ごとの引継ぎのための様式を作成することで指導者は，児童の主体的な学習を保障する声かけを行う。 状況と課題だけではなく，成果（このように取り組んだら，○○となったこと）を交流する。 主に利用している児童での話し合いによりルールづくりを行う。また，ともに活動できるようにオセロ，ソーシャルスキルかるた等を置く。 		
取組の成果と課題					
<ul style="list-style-type: none"> 成果は，年度途中から「のびのび教室」を利用したことで徘徊や授業妨害の数が大きく減少した。また，欠席日数が減少した。 課題は，のびのび教室に通室する児童のうち，昨年度はのびのび教室に通室できたが，今年度は通室できなくなった児童がいる。 					


令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	梶原 弘志	担当者名	高橋 直輝
取組事例名		『高須小学校 思いやり宣言』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
協働性～個性を活かし，多様な他者と協力し，共に課題を解決しようとする力～					
取組のねらい					
○児童会役員が中心となり「思いやり強化週間」を設定し，児童の思いやりの心，協働性を育む。また，思いやりの心，協働性を育むことで，いじめゼロ・不登校ゼロの高須小学校を目指す。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>○児童会役員が「思いやり強化週間」を設定し，取組のねらいや取り組み方を全校朝会で周知する。</p> <p>○各学級，学級会で「思いやり宣言」について話し合い，学級の目標を設定する。また，毎日目標に対して振り返りを行う。</p> <p>○「思いやり強化週間」期間中に各学級，「グループエンカウンター」の授業を行う。</p> <p>○「思いやりを感じたこと」「心が温かくなったこと」等を紙に書き，台紙に貼る。</p> <p>○「思いやり強化週間」期間中に児童会役員が各学級の取組を確認し，がんばっている学級の代表者にインタビューをし，全校児童に紹介する。</p>			 <p>○生徒指導部で取組む題材を考え，各学年で統一した取組みを行う。</p> 		
取組の成果と課題					
<p>○今年度は，児童会役員から「思いやりの心を育てたい」と提案があった。昨年度の取組みを振り返り，児童が主体的に考え提案することができた。</p> <p>○アセスの結果では，「友人サポート」「向社会的スキル」の数値に伸びが見られた。</p> <p>○昨年度の反省を生かし，「思いやり強化週間」終了後も，思いやりを感じた行動等を帰りの会で交流した。</p> <p>●新型コロナウイルス感染防止のため，児童同士の交流をもつことが難しかった。コロナ禍における効果的な取組を今後も工夫する必要がある。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	西田 早苗	担当者名	吉岡 欣哉
取組事例名 『スマイル・プロジェクト～みんなでつながろう！～』					
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話		○	主体的な活動を通じた絆づくり
取組における育てたい資質・能力					
「評価し改善する力」					
取組のねらい					
<p>○コロナ禍で異学年交流が難しい状況の中でも，高学年として，自分たちにできることを考え実践することで，下学年の児童が上級生とのつながりを感じ，学校に来ることが楽しいと考えることができるようにする。</p> <p>○6年生に，最高学年としての自覚をもたせるとともに自己有用感を感じさせる。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>学級活動（1）において，学級会オリエンテーションで話合いの一連の流れを確認した。その中で，新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動の自粛を余儀なくされている状況下において自分たちにできることを考え，実行した。</p> <p>全校とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童玄関にメッセージボードを置き，6年生から全校へのメッセージを発信した。 <p>他学年とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学してすぐに臨時休業になり不安を抱えている1年生のために何かできることはないか考えメッセージを作成し手渡した。また，休憩時間を用いてのミニ交流会を行った。 庄原小の高学年としてもっと5年生と仲良くなることができれば，より良いリーダーになれるのではないかと考え仲良くなるためのアイデアを出して5年生へのメッセージを作成した。 <p>学級の仲間とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 他学年にばかり目を向けてきた児童が，自分のクラスを振り返って「まだまだ自分たちのクラスに課題があるのではないか。全員が本当に安心して過ごせるクラスになっていないと思う。まだ，話ができない人がいる。残りの半年を本当に心の底から楽しんでいいクラスだったと言って卒業したい。そのためにはみんながもっと笑顔でつながれるクラスにしたい。」という児童の思いから話合いを行い，「笑顔でつながる会」の内容を考え実行した。 			 <ul style="list-style-type: none"> 季節や行事等に合わせたメッセージボードを作成することにより，全校で統一した意識付けとなるようにした。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○○さんへ 私は6年生の◇◇です。よろしくね。6年生は優しいのでいつでも話しかけてね。困った時はいつでも相談してね。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 一連の活動（計画委員会の事前の準備での話合い，本時の話合い，話し合ったことを実行するための事後の活動）のそれぞれの場面で自己調整している姿を意識させ評価した。 話合い前によりよい話合いにするための必要なポイントを確認して意識付け，話合い後に振り返りを行った。 		
取組の成果と課題					
<p>○「自分の学級は楽しく安心だと思いますか。」の問いに対して，全校において肯定的評価が96%と高い数値となった。また，同質問に対して「とてもそう思う」と回答した6年生の割合は47.5%（7月）→60.6%（2月）と向上した。</p> <p>○できる限りみんなの意見を生かすことが大切であることに気付き，何とかいい方法はないか考えようとする児童が増えている。（共感的人間関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●6年生を中心とした取組だけでなく，他学年も巻き込んだ取組となるように，児童会を活用していく必要があった。 ●自主性をもった取組の推進に向けて，6年生だけでなく，他学年の意識の向上も図っていく必要がある。 					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	國崎 康裕	担当者名	中西 洋平
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『特別支援推進委員会の組織的な取組』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話		主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	---	----------------------------------	--	----------------

取組における育てたい資質・能力

○生きる力，コミュニケーション能力，レジリエンス

取組のねらい

○生徒が，安心して安全に学校生活を送ることができるように組織的な生徒指導を行う

取組の具体的内容	取組の創意工夫
----------	---------

(1) 特別支援推進委員会の開催

- ①週1回，時間割に位置付けて開催
- ②各学年の長欠，不登校及び不登校傾向の生徒や，学習・生活支援が必要な生徒の情報共有や対応の検討
- ③各学年ごとの情報共有シートの利用
- ④SCや心のサポーターの参加と助言

(2) 学習支援員の割り当て

- ①学習支援が必要な生徒をピックアップ
- ②週ごとの時間割に学習支援員の割り当て
- ③必要に応じて，対象の生徒と学習支援員の顔合わせ

(3) SSR（不登校支援教室）の運営



- ①学年，学級とSSR担当者との連携
- ②利用生徒の情報共有
- ③学習計画表の利用
- ④自習課題の準備
- ⑤学習計画表を通して，常に担任や学年と連携

(4) 校内研修

- ①保護者対応や生徒対応について，講師を招いて実施

(5) hyperQUの実施・分析

- ①年間2回実施し，比較・分析
- ②分析シートを活用し，学年や教科担当で情報共有

(6) 小中連携

- ①生徒指導主事が小学校に出向く
- ②主に小学校6年生や中学校1年生についての連携
- ③連携内容の情報共有

取組の成果と課題

- 生徒の情報共有ができており，学年全体で組織的な対応ができています。
- 長欠，不登校の生徒がSSRを利用することで，登校の機会が増え，校内で話をするようになった。家庭訪問しなくても校内で対応できるので，業務改善にも繋がっている。
- 教員間で意識に差があり，細かな部分まで連携・相談等をする必要がある。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	府中町立府中中学校	校長	小山 貴美	担当者名	久保 直樹
取組事例名		『生徒主体の文化祭の創造』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
「課題発見力」「他とかかわる力」「自ら行動する力」					
取組のねらい					
4月より一度も全校で集まることができていない状況の中で，全校生徒がつながる活動を通し，集団への所属感を深め，自己存在感を高める。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>① 文化祭に，この状況下で生徒全員が参加することができることを考える。</p> <p>② 生徒会を主体に，テーマとの連動を考えながら具体的な活動内容を考え，活動スケジュールを立てる。</p> <p>③ 文化祭実行委員会にて確認を行い，各クラスで活動を行い，全体集約を生徒会が行う。</p> <p>④ 文化祭当日，それぞれで取り組んだことを発表する。</p> <p>⑤ 他学年等に対して，振り返りを記入する。</p> <p>⑥ 各家庭へ取り組んだ過程も含んだDVDを配布する。</p>			 <p>◎全校生徒の顔写真とメッセージをつなぎあわせてテーマを作る。</p>  <p>◎3年生が後輩に伝えたいメッセージ</p> <p>◎各クラス，各部活動の紹介動画の作成を行い，各動画をつなげることでつながりを持たせる編集を行った。</p> <p>◎グラウンドでの取組 ※運動会未実施のため 府中音頭（1年生）よさこい（2・3年生） 吹奏楽部の発表</p> <p>◎体育館・掲示物見学・動画視聴（交代制）</p>		
取組の成果と課題					
<p>（成果）文化祭後のアンケートの記述から，達成感を感じている生徒が多かった。3年生が次に進むための1つの区切りとすることができた。また，生徒会本部として活動した生徒が，自分達で作り上げた文化祭として自信を深めることができた。学級への所属感をもち，生徒同士のつながりを深め，その後の学級経営も円滑に行うことができた。制限があることにより慣習となって活動してきたことを見直す良い機会となった。</p> <p>（課題）学年をこえた関わり合いが難しかったため，取組段階での関わりが薄く，学校全体としての一体感を作り出すことが難しかった。来年度，どのように行事を位置付けていくのか，目的意識をしっかりとった活動を進めていく必要がある。</p>					


令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘学校	校長	中坊 京子	担当者名	河本 春彦
取組事例名 『人間関係作りトレーニング』					
生徒指導に係る連携体制の確立		○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
(1) 「自ら考え主体的に判断し，学び続けようとする生徒」 (2) 「自分を信じ，自己決定できる生徒」 (3) 「自分を大切にし，互いに助け合える生徒」					
取組のねらい					
「社会性（人間関係能力）と情動の育成」⇒個が育つ集団づくり ① 自己への気づき・他者への気づき ② 自己のコントロール ③ 責任ある意思決定					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>1. 年間5回の実施（5月・6月・9月・11月・1月）</p> <p>2. 1回目の前に事前に全学年オリエンテーションの実施</p> <p>3. 最終の5回目が終了した段階で2月に振り返りの実施</p> <p>4. S S T責任者，各学年にS S Tの担当者を決めて学年会等でその都度実施に向け計画案を提案していく。</p> <p>5. 各学年の生徒の実態を踏まえて，時期，行事，部活の大会等に関連した内容を厳選して内容項目を検討していく。</p> <p>6. 授業の進め方は，導入・説明⇒話し合い⇒モデリング⇒ロールプレイ⇒振り返り・まとめ⇒次の学習場面や日常生活への展開</p> <p>7. SEL8-Sの確認と実践</p> <p>*学習領域：①基本的な生活習慣②自己，他者への気づき，聞く③伝える④関係づくり⑤ストレスマネジメント⑥問題防止⑦進路⑧ボランティア</p> <p>*社会的能力：①自己への気づき②他者への気づき③自己のコントロール④対人関係⑤責任ある意思決定⑥生活上の問題防止のスキル⑦人生の重要事態に対処する能力⑧積極的・貢献的な奉仕活動</p> <p>※以上の社会的能力と学習領域との関係から生徒の資質，能力を探り，S S Tの授業を通して生徒個々の変容を見ていく。</p> <p>※1年間を通して振り返りシートから社会的能力の8項目を5点満点で点数化して最終的にグラフ化して変容を見取っていく。</p> <p>※教員が，S S Tの目的や具体的な内容，指導方法について学ぶための校内研修会を実施する。</p>			<p>① 全学年学活において同じ時間に実施する。</p> <p>② 1時間1時間，教師資料やワークシート，教師用資料，指導案を準備して取り組む。</p> <p>③ 学校行事と関連性を持たせながら定期的にタイムリーな内容を選択して実施する。</p> <p>④ S S Tの授業だけではなく，日頃の授業や日常生活に生かせる工夫をしていく。</p> <p>⑤ 生徒に学ばせるだけではなく，教師自身がコミュニケーション能力を高めていく。</p> <p>⑥ 振り返りシートや社会的能力の8項目を資料に普段の教育相談の面談に利用したりする。</p> <p>⑦ データは次年度に繋げる。</p> <p>⑧ 授業とは別に日常で使える簡単なS S T集を各担任に配布して時間やタイミングを見てSHR等で実践する。</p> <p>※①時間を大切に②道具の管理③初対面での話④ストップいじめ⑤学校でのミニボラ等日常の中で活用する。</p>		
取組の成果と課題					
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの授業もコミュニケーション能力を高めるのに効果的であった。 ・人と人との接し方に関わる内容に効果的であった。 ・断り方など，人間関係を築くために必要なスキルを高められた。 ・意見や話の聞き方を学ぶことができた。 ・他者の思いを考えたりしようとする意欲が高まった生徒が増えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動にとどまらない関わり合いの場面の設定や生活場面での活用の定着と汎化を促す。 ・教師の継続的な意識化，言葉かけの活用の促進。 ・短期，長期的な視点からの取組の必要性。 ・年間計画の充実と組織的な運営のできる校内体制づくり。 					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	三原市立宮浦中学校	校長	今田 大助	担当者名	松岡 雅子
取組事例名		『校内適応指導教室の整備と活用』			
○	生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
・「伝える力（コミュニケーション能力）」：自分の考えや意見を，相手に伝えることができる。					
取組のねらい					
・不登校，不登校傾向及び特別な支援が必要な生徒への社会的自立を視野に入れた支援の充実					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>○校内適応指導教室を整備し，個々の生徒の実態に応じた個別の学習支援やコミュニケーション能力の育成を行う。</p> 			<p>○居心地の良いスペースの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がリラックスしたり居心地の良さを感じられたりするように，机や椅子，棚，ロッカーなどを白と黄緑色の柔らかいトーンで統一した。また，個別で学習や作業したい時のために個別ブースを配置した。 <p>○コミュニケーションを取る工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常は会話しやすいように，長机をコの字型で配置している。「絵しりとり」を取り入れ，通室時間の違いで会えないメンバーや教職員などとのつながり作りや会話の糸口に役立っている。 		
取組の成果と課題					
<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のための非常変災による出席停止措置があり，単純には比較できないが，2月15日現在，不登校生徒の出現率は前年比マイナス2%，不登校生徒数は前年度より7人，長期欠席者は18人減っている。</p> <p>・校内適応指導教室を整備し，学校ふれあい相談員や教育相談担当が適応指導教室に在室する時間が確保され，活用できる時間が増えたことにより，不登校生徒がいつでも安心して登校できる環境づくりが促進された。また，SC・SSWは来校時には適応指導教室を訪れ，生徒の様子を観察したり，話をしたりとコミュニケーションを積極的に行っている。</p> <p>・個別最適な学習課題について，一人一人の特性や状況を見取り設定することに難しさを感じる。今後はICT機器やタブレットを活用した学習も取り入れていきたい。また，校内適応教室の活用や生徒支援について，全校でより共通認識を深めていくことが課題である。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	米本 紀子	担当者名	富田 竹則
取組事例名		『 自己有用感の向上を目指して 』			
生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
自己有用感 説明力					
取組のねらい					
<p>○気になる生徒のサインを把握し，保護者や関係機関との連携を図る。</p> <p>○生徒会を中心とした集団づくりの取組の中で自己決定の場を設け，主体的に行動する態度の育成。</p> <p>○自己有用感の育成。</p>					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
<p>【教育相談の充実】</p> <p>○教職員による全員面談（部活動面談も実施）</p> <p>○不登校生徒のための相談室の開設</p> <p>○不登校生徒には週1回の家庭訪問を実施</p> <p>○毎月2回の教育相談委員会を開催</p> <p>○情報共有のためのデータ化</p> <p>【生徒主体の活動】</p> <p>○いじめ撲滅宣言の作成</p> <p>○専門委員会によるありがとう週間の実施</p> <p>○新しい行事の取組</p> <p>【自己有用感の育成】</p> <p>○アイスブレイクの実施</p>			<p>【教育相談の充実】</p> <p>・長期休業後に期間を決めて実施した。</p> <p>・客観的な資料としてアセスを活用した。</p> <p>・相談室の目的は教室復帰できるまでの一時的な場として活用。ルールを決めて実施した。</p> <p>・担任だけでなく，学年・生徒指導主事・SSWによる家庭訪問の実施。</p> <p>・SCやSSWも参加し関係機関との連携や保護者の困り感等から，短期・長期目標を作成した。</p> <p>・不登校生徒等の様子・家庭状況等，いつでも閲覧し加筆できる環境を整えた。</p> <p>【生徒主体の活動】</p> <p>・生徒会執行部が中心となり，いじめ撲滅宣言をクラス掲示し，放送で呼びかけを行った。</p> <p>・友だちの良いところをみんなで評価する。</p> <p>・学年行事で自己決定の場を設け，生徒が中心となって運営した。</p> <p>【自己有用感の育成】</p> <p>・毎週水曜日の帰りのHRで，班やクラス全体を使って実施している。マンネリ化を防ぐため，毎回の取組をSSWと検証しながら進めた。</p>		
取組の成果と課題					
<p>今年度，不登校の生徒数が13名と依然多いものの，今まで登校できなかった生徒が，相談室や校門まで登校できるようになるなど，これまでの本校の取組が実を結び始めている。更に，平成30年度「基礎・基本」で自己有用感は48.7%であったが，令和2年度12月「学校評価アンケート」で73%と大きく向上した。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	定宗 讓二	担当者名	小田 昌滋
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名 『組織的生徒指導体制の確立』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドを もった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	----------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

不登校未然防止推進校として，不登校・不登校傾向生徒に対する，校内での情報連携を積極的に行い，個に応じた適切な指導を組織として行うことにより，生徒の登校に対する意識の向上や，登校に向けての行動力を高める。

取組のねらい

- 組織的な生徒指導体制の確立
- スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，関係機関との連携を密にした指導
- 問題行動，不登校の未然防止

取組の具体的内容

- 毎週金曜日の1時間目に，定例生徒指導部会（校長・教頭・生徒指導主事・学年生徒指導担当・スクールソーシャルワーカー）を実施した。その中で問題行動や不登校生徒の情報の共有を図り，共通認識のもと組織的な対応を行った。
- 生徒の状況に応じて，スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を行い，生徒へのカウンセリングや保護者との面談を積極的に実施した。
- 生徒の様子を常に把握するため，生徒玄関での挨拶指導や検温等の確認，各学年のフロアでの生徒指導，職員室での電話対応など，各学年で分担を決め，毎日実施した。
- 職員室のホワイトボードを活用し，生徒の出席状況を常に把握できるようにした。出欠席の連絡が無い生徒については1時間目が始まるまでに，必ず保護者に連絡を行い，状況の把握を行った。
- 放課後は下校指導を行った後，学年会を行い各学級の状況の交流と，今後の確認を毎日行った。学年会で出された内容は，毎週の生徒指導部会で情報の共有化を図っている。

取組の創意工夫

- 定例の指導部会の際には，資料として別紙様式6を活用し，不登校・不登校傾向生徒の1週間の状況や取組内容，今後の支援について記入し，情報共有と対応の検討を協議している。
- 生徒の状況を常に把握するために巡回簿を作成し，学年毎に毎時間担当者を決め，授業中の各教室を巡回し，生徒の状況を把握している。

取組の成果と課題

- 校内での連携体制は十分に機能しており，問題行動の対応や不登校・不登校傾向生徒の対応を担任まかせになることがなく，組織としての動きができています。
- 個に応じた対応の検討や綿密な情報共有を積極的に行ってきたが，ケースによっては不登校状況の改善に繋がらない生徒や，関係機関への相談や連携を行っても改善に至らないケースがあった。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立三原東高等学校	校長	前田 節子	担当者名	多田 靖
-----	-------------	----	-------	------	------

取組事例名 『特別活動における生徒の自己肯定感を高める取組』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

【自己管理能力】自らの思考や感情を律するとともに、「やればできる」と考えて行動できる力。
①生徒の自己肯定感を高める。②生徒が目標（なりたい姿）をもつことができる。

取組のねらい

- 特別活動を通して生徒の自己肯定感を高め，生徒が学校生活を意欲的に送る。
- 生徒会活動を中心にして，生徒の主体性を育成する。

取組の具体的内容

- 学校生活への目標をもたせる取組
 - 「東高ルーブリック」(学校生活のルーブリック)
 - ルーブリックを各HR教室に掲示し，生徒にとっての行動指針を「見える化」した。
 - 生徒スローガン「目標に向けて一歩先へ」
 - 執行部が年間目標を設定し，生徒総会で提案した。
 - 「成長をふりかえるシート」など，さまざまな場面でふれることで，生徒に目標を意識させた。
- 生徒主体の行事運営
 - 執行部によるオープンスクールの運営（8月）
 - 「三原東高校魅力発信PT（プロジェクトチーム）」を発足させ，企画・運営に生徒が参画した。
 - 縦割りLHRの実施（12月）
 - 「社会人に求められる力は何か」「そのためにどのように学校生活を送ればよいか」をテーマに，グループ討議を行った。

取組の創意工夫

- 共通の目標をもつことで，生徒どうしが「つながる」

項目	A (努力目標)	B (自分目標)
〇時間を守る	・5分前には授業の準備をすませる。	・1分前には授業の準備をすませる。
〇声だしのみ	・制服を正しく着こなし，お互いに注意し合う。	・制服を正しく着こなし。
〇授業への取り組み	・授業に集中して取り組み，予習や復習をする。	・授業に集中して取り組む。(ノートを書く，私語・居眠り・中抜け・忘れ物をしない)

- 主体的な活動の中で，生徒どうしが「つながる」



取組の成果と課題

- 生徒質問紙調査を経年比較すると，自己有用感や学習意欲について，肯定的評価の割合が高まった。
- 「三原東高校魅力発信PT」では，受付・案内係として1年生ボランティアを募集し，11名が執行部とともに運営に参画した。
- 学校行事は生徒全員が前向きに参加できる機会となるため，「成長をふりかえるシート」を活用して，できたこと・できるようになったことを言語化し，教員がそれを認めることで，生徒の自己肯定感を高め，教員と生徒の信頼関係が築けるように取組を工夫する。

【生徒質問紙調査経年比較】

質問項目	R1 (※1)				R2 (※2)			
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまる	まったくあてはまらない	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまる	まったくあてはまらない
8 努力すれば，将来の夢や目標はかなうと思います。	33.0%	39.6%	19.8%	7.7%	43.0%	35.4%	16.5%	5.1%
26 勉強は，自分のみだんの生活や社会生活の中で役立つと思います。	22.0%	45.1%	27.5%	5.5%	22.8%	46.8%	26.6%	3.8%
27 これまで学習したことの中で，もっと学びたいことがあります。	8.8%	30.8%	40.7%	19.8%	15.2%	39.2%	30.4%	15.2%

※1 令和元年度は平成31年度入学生（91名）のもの
※2 令和2年度は平成31年度入学生（79名）のもの

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	広島県立大竹高等学校	校長	流田 靖	担当者名	岡本 茂生
-----	------------	----	------	------	-------

取組事例名 『体育的行事』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 各学年によるコミュニケーション能力の育成
- 主体的な活動としての積極的実践力
- 共感的理解と人間関係の形成

取組のねらい

- クラスの一員としての所属意識を高め，自己存在感に気づく。
- 集団の中で自分の責任を果たし，積極的に活動する。
- 他者とのかかわりを意識して，公正・安全に競技する。

取組の具体的内容

- 体育祭
 - ・縦割りのチーム構成による団体競技
 - ・「つなぐ」を意識したバトンパス競技
 - ・ザ・ガマン
 - ・縄跳びギネスに挑戦



- 球技大会
 - ・年間3回の競技計画でソフトボール・バレー・サッカー・バスケット以外にソフトバレー・ドッジボール・3×3バスケット・フットサルの新競技を実施



取組の創意工夫

- ※身体接触や密のない競技を精選
- ※生徒同士の繋がりを意識し，新種目クラス対抗駅伝を導入。
- ※3年生による色別応援
- ※教員チームの競技参加
- ※個人競技に「忍耐力」を表現する種目の追加
- ※行事縮小分は回数を増やしカバー
- ※体育委員による大会運営
- ※クラス生徒が必ず出場するルール
- ※マスコットキャラクターを募集，視覚的効果による意欲向上を図る

取組の成果と課題

- 競技運営に対して生徒同士で支え合い，協力的に実施することができた。
- ケガの未然防止に向けた，競技の種類・運営方法を改善することが課題である。
- 生徒の満足度が95%以上であった。
- 生徒の自主性を引き出す仕掛けづくりが必要である。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長	宮原 敏典	担当者名	篠原 祐木
取組事例名		『団結心・連帯感を養う運動会の実施』			
生徒指導に係る連携体制の確立		カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり	
取組における育てたい資質・能力					
主体的に集団や社会に参画する能力					
取組のねらい					
全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し，よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して，主体的に集団や社会に参画する能力を養う。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫		
 <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策として競技内容の見直し ・年次ごとの壁画をグラウンドに展示（文化祭要素の取入れ）。 ・新企画，3年応援団の実施。（写真） 			<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科や企画総務部によって考え抜かれた競技内容の変更は，生徒が新しいことに取り組む楽しさを感じさせる機会となった。 ・年次ごとの文化的な取り組みを行うことによって，生徒が自分たちと他年次を比較し，より良い集団にしようとするきっかけを作った。 ・今年の運動会を盛り上げようとする有志を教員が全面的にサポートすることで，有志メンバーに達成感を与えることができた。 		
取組の成果と課題					
<p>学校評価アンケートを7月と12月に実施した。「私は，学校行事（儀式・文化祭・運動会・遠足等）の時には積極的または協力的に取り組んでいる」の肯定的な回答が73.2%（7月）から85.5%（12月）に向上した。この結果は，本校の学校行事が生徒たちにとって重要な役割を果たしていることを表している。一方で，今年の3年生が実現した集団による表現力を次年度で維持できるかどうかは，年次ごとの1年間を通じた取り組みに左右される。</p> <p>どの年次においても，それぞれの学校行事に向けて協力して指導に当たることが課題となる。</p>					

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立沼南高等学校	校長	矢野 智之	担当者名	立山 敏行
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『コロナ禍における体育祭の実施について』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

生徒が自ら課題を発見し，解決するといった資質・能力

取組のねらい

- ・コロナ禍で体育祭を実施する際の課題を発見させ，解決する資質・能力を育てる
- ・困難の中で，体育祭を実施できたことに対する充実感を高め，生徒相互の絆を深める

取組の具体的内容

取組の創意工夫

- ・生徒会で，実施する際の課題を出させた（8～9月）
- 感染リスクを減らすための工夫
 - ① 接触を伴う競技を減らし，非接触の競技を増やした競技種目，日程案の決定。
 - ② 大縄跳びや綱引きは人数を減らし，選手間の間隔を広げる。
 - ③ 競技時間の短縮，準備時間の短縮及び予行練習の中止，入場行進（練習に期間がかかる）の中止等の提案。
 - ④ 保護者参観，来賓招待の中止及び保護者参加型の種目の変更の提案。
- ・生徒会案の体育委員会への提示（体育委員会）（9月上旬）
競技種目が減ったり，接触する種目がなくなるのは面白くないという意見はあったが，協議の末生徒会案を了承。
- ・保健委員会との連携（10月上旬）
個人種目（キャタピラー）でも人が交代する時は，殺菌が必要ではないか，リレーは使い捨ての手袋をすべきではないかなどの提案があった。

- ・感染リスクを減らすためには何が必要かを，制限を設けず，自由に意見を言わせた。
- ・生徒だけでなく，保護者や地域住民への影響も考えさせた。
- ・時間はかかったが，議論の流れを，生徒会→体育委員会・保健委員会→各クラス→体育委員会・保健委員会→生徒会及び教職員という形になるようこだわった。

取組の成果と課題

（成果）

- ・体育の時間での練習・準備を除き，前もっての練習・準備（予行等）がほぼなしで体育祭を実施することができた。
- ・例年の種目・日程だと，前もって準備に多くの時間を費やし，時間割変更等が必要であったが，コロナ禍に際して，工夫次第で体育祭が準備も含めて，当日のみで実施できたこと。
- ・当日会場設営から始められたので，天気の影響を受けなくなり，実施や延期が容易に行えるようになった。
- ・普段の体育祭では考えなかったような条件下で，かえって生徒の自由な意見・発想を引き出すことができた。

（課題）

- ・予行がなかったため，次の種目の準備や生徒の整列等に時間がかかった。そのため，競技と競技の間が間延びし，進行がスムーズにならなかった印象が残った。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長	吉川 由縁	担当者名	藤本 倫考
-----	------------	----	-------	------	-------

取組事例名 『生徒会行事及び生徒会執行部の取組』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

生徒の主体的な活動を通して，生徒自らが課題を発見し，解決するといった主体的な学びを推進し，自己の行動が管理でき，人を大切にする心（福祉の心）で人と協働できる資質・能力。

取組のねらい

生徒会活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容

○ 新型コロナウイルスによる長期休業明けに校長が生徒会執行部（3年生主体）を招集し，執行部が中心となり行事等を進めてはどうかと話をした。

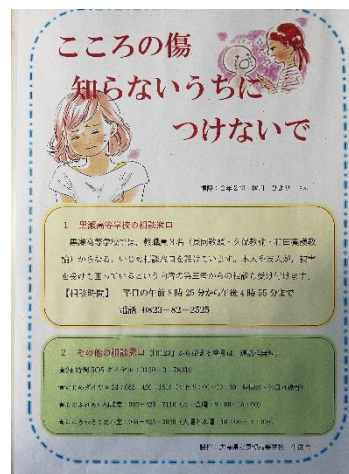
<結果>

- ① 「いじめ防止」のポスターの標語を全校生徒から募り，ポスターを作成し校内に掲示した。
- ② クラスマッチを開催するか否かを考え，全校生徒にアンケートを実施して4分の3以上の開催希望があり，プレー以外でのマスク着用，用具の消毒などの感染防止策を講じて大会を運営した。
- ③ 体育祭の運営を生徒会執行部がリードして行った。

○ 来年度からの制服の移行時期の廃止に伴い，制服検討委員会での素案を経て，執行部で着こなしについて生徒の立場で話し合いを行った。「制服はきちんと着るべき」という意見が多く出て，意見を学校運営に反映させた。

取組の創意工夫

例年であれば，教員主導で恒例の行事を進めてきたが，生徒会執行部が中心となり，生徒の声を集約し，主体的に運営するよう働きかけた。



生徒会長を中心にまずは生徒だけで自由闊達に意見ができる場をつくり，助言をするようにした。

取組の成果と課題

新型コロナウイルス感染症の影響で，多くの行事が中止や内容の変更を余儀なくされ，例年と同様の学びの機会が失われた。今年度の目標である「主体的な活動を通じた絆づくり」を実践する上で，あえてその環境を利用して生徒の主体性を育むこととした。今年度の取組により，生徒は自分たちの声が学級運営に反映することを実感した。行事前だけであった執行部会が定例化し，よりよい学校づくりに参画している意識を持ちつつある。こうした生徒会執行部の姿を他の生徒もみて，自分の行動規範を作り出せることを期待している。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	広島県立河内高等学校	校長	原 浩二	担当者名	川原 栄治
-----	------------	----	------	------	-------

取組事例名 『「医療従事者に感謝を」プロジェクト』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

問題意識を持って，主体的・積極的に考え，社会参画する力

取組のねらい

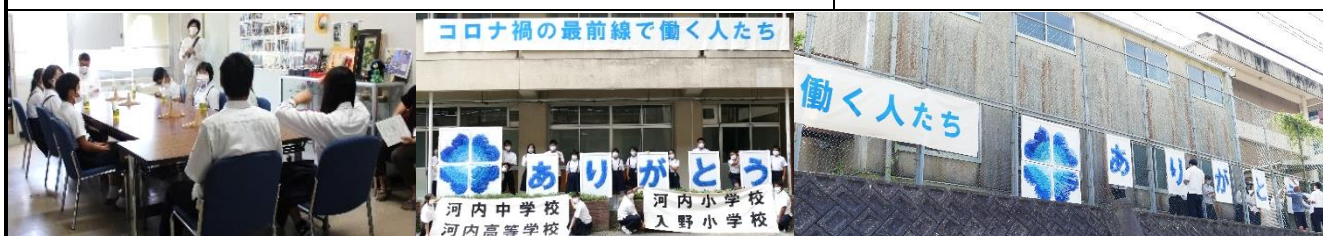
医療従事者の苦しい状況を共感的に理解する。医療従事者に対する感謝の気持ちを伝える活動を通して相手を意識して伝えることを体験する。地域の小中学生と共に取り組む中で，社会参画する力を高める。

取組の具体的内容

- 1 生徒会を中心に活動に参加する生徒を募る。
- 2 医療従事者の置かれている状況を調べる。どんなことを負担に感じているかを想像し，意見を交流する。
- 3 感謝の気持ちを伝えるためには何をどのように行えばよいかを考え，意見を交流する。
- 4 役割ごとにリーダーを中心として作業を進める。
- 5 小中学校との交流，パネル設置，メディアからの取材を経て，取組の前と後での考え方の変化について意見を交流する。

取組の創意工夫

主体的に参加する雰囲気をつくる。
自分と異なる意見から学ぶ大切さを伝える。
正しく「伝える」ためには「受け取る」側を意識するようアドバイスする。
責任の所在を明確化する。
言葉によって表現することで全ての活動を振り返らせ，お互いを肯定的に評価する。



取組の成果と課題

新型コロナウイルスの影響で多くの行事を例年通りに実施できなかったこともあり，予想していた以上に積極的に取り組む生徒たちの姿が見られた。意見交換を通して，医療従事者の心情を深く想像することができ，また，異なる意見を肯定的に聞くことの大切さを学んだと思われる。全校生徒，教職員，地元の小学生，中学生へと取組の輪を拡大し，折り鶴を作るという具体的な作業を共同で行うことで，医療従事者に対する感謝の気持ちを拡大することができた。以下に，生徒の変容の一端が表れていると思われる，1学期と取組を経た2学期に実施した人権に関するアンケート結果の一部を紹介する。

質問項目	7月	12月
人それぞれ，考えや感じ方に違いがあってよいと思う。	97.9%	99.3%
自分にはよいところがあると思う。	73.0%	75.0%
友だちは，努力したことを認めてくれる。	94.3%	97.9%
自分の役割を責任を持って果たし，学級のみんなや部活動のメンバーと協力し合っている。	92.9%	95.0%

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	広島県立安西高等学校	校長	新本 勝	担当者名	井上 美治
-----	------------	----	------	------	-------

取組事例名 『学ぶことの意義を問う粘り強い指導』

○	生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話		主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	---	------------------------------	--	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 将来の生活に活かせるよう自らの学びに向かう。
- 気持ちの良いあいさつや，その場にふさわしい正しい言葉遣いなどができる，コミュニケーション力を身に付ける。

取組のねらい

- 「主体的な学び」をとおして，生徒の希望する進路を実現する。
- 安西高校に「来てよかった」という，「自校肯定感」を持つ生徒を育てる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談委員会(毎週水曜日1限)で不登校傾向や配慮を要する生徒等について把握し，対応を検討する。 ○生徒との対話 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを取りにくい生徒に対して放課後等の時間を活用し，担任を中心に生徒の思いを丁寧に聞きとる。 ・生徒本人が心を開くことのできる友人等にも協力を依頼し，サポート体制をとる。 ○保護者連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学校外の同年代の少年と関わらないような環境をつくる。(警察，保護者との連携) ○外部機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・状況によって警察，児童福祉施設等と連携した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任を中心に学年の状況を把握，対応する。SSWの助言，SCとの連携など組織で対応する。 ・時間はかかっても生徒の話丁寧に聞き，生徒自身の気持ちを整理させる。 ・生徒の将来の夢，「なりたい自分」に近づけるために現在，どうすればよいかを考えさせる。 ・寄り添う，励ます言葉かけを意識した指導をする。 ・過去の成功事例から生徒の状況改善のためには保護者の協力が欠かせないことを伝える。 ・連携をとおして情報を収集し，学校としてできることを検討した。

取組の成果と課題

- (1) コミュニケーションがうまく取れず，どうしてよいかわからなくなるという生徒に対し，カウンセリング・マインドをもって対話を行うなど学校全体で取り組むことができた。
- (2) 将来の夢や目標を設定させることで，生徒自身が「将来の生活に向けて今，何をすべきか」を意識し，行動することができるようになった。
- (3) 保護者との連携において個に寄り添った指導を充実させることで保護者自身も生徒に積極的にかかわってもらえることができるようになった。これによって生徒の生活が安定し，生徒の表情が明るくなるなどの成果があった。
- (4) 教員によるカウンセリング・マインドをもった対話について，今後もスキルの向上を図る。

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校
「指定校における取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長	神田 浩二	担当者名	井手之上 訓芳
-----	--------------	----	-------	------	---------

取組事例名 『学校を元気にする部活動の成果発表』

生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	○	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	------------------------------	---	----------------

取組における育てたい資質・能力

- 他者と目的を共有し，主体的に協働する力。
- 自分や他者の価値・存在を肯定し，互いに尊重することができる力。

取組のねらい

部活動での活動の成果をクラスメイトに向けて発表することで，本校生徒としての自分の価値や存在感，自己肯定感を高める。

生徒たちに企画，運営させることで，主体性やコミュニケーション能力を育成する。

取組の具体的内容

○ ダンス部による発表
11月と1月の昼休みを利用し，本校中庭でのダンス発表を行った。新型コロナウイルスの影響により，学校行事（遠足，文化祭，体育祭等）が中止になったことで，気持ちが落ち込んだ生徒達を元気づけたいという生徒の要望から実現した。



○ 器楽部による発表
2月8日（月）の放課後，体育館で演奏会を行った。11月に行われたダンス部の発表を受け，器楽部員からも学校を盛り上げたいという要望から企画した。演奏する曲目や演出，運営についても生徒が全て計画した。

取組の創意工夫

- ダンス部
 - ・企画書の作成や生徒会への交渉，新型コロナウイルス感染防止対策など，生徒が主体となって計画した。
 - ・マスク着用の呼びかけや，事前に生徒への告知や案内放送を行うなど，観戦のルールを明確にした。
 - ・昼休みの限られた時間を利用するため，何度も放課後練習と細かい時間配分をし，学校生活に影響を与えない工夫をした。
- 器楽部
 - ・観客数を把握するため，事前予約をした生徒のみの来場とした。

取組の成果と課題

成果

- ・1月の発表会を3年生部員の最後の発表の場と設定できたことで，練習の成果を力いっぱい発揮して踊ることができていた。
- ・器楽部の発表では，生徒自身が計画したイベントをスムーズに運営できたことで，生徒の自信につながった。発表後の反省会では，今後もより良い演奏会を実施するため建設的な意見を出す姿が見られた。

課題

- ・コロナ感染予防から学校行事が思うように開催できない中での企画だったため，運営上の不備や教職員間の連携不足などがあった。生徒会のバックアップがあれば，生徒同士が当事者意識をもって協働できる場面をつくることができた。次回の企画に生かしたい。